



平成 30 年 1 月 23 日

各 位

会 社 名 ダイナパック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 杉山喜久雄
 (コード：3947 東証・名証第 2 部)
 問合せ先 取締役執行役員 経営企画本部長 草野 雅夫
 (電話番号 052-971-2651)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 7 月 28 日に公表しました平成 29 年 12 月期(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正しますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

平成 29 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正
 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期 純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	49,700	1,060	1,370	1,920	194 円 26 銭
今回修正予想 (B)	49,700	300	650	1,300	131 円 50 銭
増減額 (B-A)	—	△760	△720	△620	—
増減率 (%)	0.0	△71.7	△52.6	△32.3	—
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 12 月期)	46,592	1,017	1,432	1,145	115 円 98 銭

(注) 当社は平成 29 年 7 月 1 日付で普通株式 5 株を 1 株に併合しております。前期の 1 株当たり当期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定して金額を算定しております。

平成 29 年 12 月期通期個別業績予想数値の修正
 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	35,600	450	720	1,470	148 円 73 銭
今回修正予想 (B)	35,100	△60	280	1,200	121 円 39 銭
増減額 (B-A)	△500	△510	△440	△270	—
増減率 (%)	△1.4	—	△61.1	△18.4	—
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 12 月期)	34,306	479	811	1,052	106 円 58 銭

(注) 当社は平成 29 年 7 月 1 日付で普通株式 5 株を 1 株に併合しております。前期の 1 株当たり当期純利益につきましては、前会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定して金額を算定しております。

2. 修正の理由

(平成 29 年 12 月期通期の連結業績予想)

売上高については堅調に推移しましたが、営業利益は運搬費、燃料費等の上昇に加え、8 月以降主原材料である段ボール原紙価格が 15%以上値上がりした影響を受けました。このような環境のもと、当社は 10 月納入分からの製品価格について、応分の価格改定に鋭意取り組んでまいりました。また、工場内部のコストダウン、仕入れ品の見直しなどに取り組んでまいりましたが、先行した段ボール原紙価格の値上がり分が大きく、2017 年期中におけるコスト改善により吸収し得ない負担が発生しました。

経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、配当金収入や株式売却に伴う特別利益の計上などは予想より増加したものの、営業利益減少の影響を反映して減少したものであります。

(平成 29 年 12 月期通期の個別業績予想)

売上高については概ね予測通りに推移しましたが、営業利益は運搬費、燃料費等の上昇に加え、8 月以降主原材料である段ボール原紙価格が 15%以上値上がりした影響を受けました。このような環境のもと、当社は 10 月納入分からの製品価格について、応分の価格改定に鋭意取り組んでまいりました。また、工場内部のコストダウン、仕入れ品の見直しなどに取り組んでまいりましたが、先行した段ボール原紙価格の値上がり分が大きく、2017 年期中におけるコスト改善により吸収し得ない負担が発生しました。

経常利益および当期純利益につきましても、配当金収入または株式売却に伴う特別利益の計上などは予想より増加したものの、営業利益減少の影響を反映して減少したものであります。

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想数値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断および仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合があります。

以上